

正修

日本修身書

尋常小學用

卷五

227
2
5

檢定申請書

K7291
73
5

K120.1

73

5

修正
日本修身書

尋常小學用

卷五

東京

金港堂書籍株式會社

目次

第一課	父母の恩	第九課	忠實
第二課	孝行	第十課	油斷を誠む
第三課	兄弟	第十一課	修省
第四課	兄弟	第十二課	節儉
第五課	朋友	第十三課	仁慈
第六課	朋友	第十四課	勉學
第七課	威儀	第十五課	學藝
第八課	恭儉		

第一課 父母の恩

父母の恩の大いなることは、猶天のかぎりなきが如し。試に思へ、子のはじめて母の胎内にやどるや、父母共に其のすこやかに生まれ出でんことをいのり、已に生まるるや、衣をきせ、乳をあたへ、抱きかかへて、之をいつくしみ、稍長すれば、學校におくりて、教へをうけしめ、其のかへ

りのおそきことあれば、悪友にさそはれもやせん、災難にかかりもやせんと氣づかひて、寸時も子の事を忘るるひまなし。

されば子たるものは、いかでか、其の大恩を知らでかなふべき。

世の中に思ひやれども子をこふる、

思にまさる思ひなきかな。

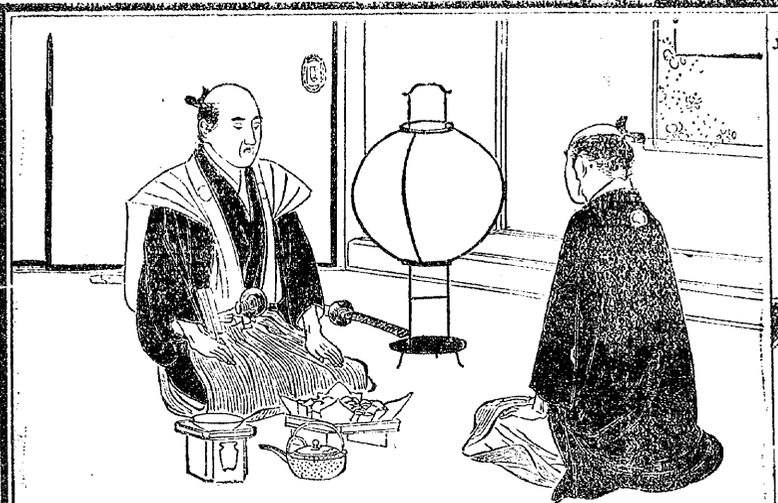
第二課 孝行

海山は限りあり父母の
恵みは限りなし、いかに
して其の恩を報いんや、
ただ孝を行ひて、其の
恩の萬一を報ずべし。

伊達治左衛門は、父母



に事へて、愛敬をつくし、し人なり、常に鮮魚
美酒を求め、味よく料理して、之をすすめたり。
父母己れの室に來らんと、いは必ず先ず美
味をまうけ、然る後父母のもとにゆき、御二
方我が身體の健なるを試たまふ」とて、之を
負ひて伴ひ來りたり。
父母に孝に。



第三課 兄弟

兄は弟に愛ふかく、
 弟は兄に敬あつく
 すべし。兄は弟惡し
 とて、似せて愛をう
 すぐすべからず。
 弟は兄惡しとて、似

せて不敬なるべからず。

安藤直次アンドーナホツジ、一つの名刀を持ちけるが、弟重信シゲノブ心
 の中に其の刀をほしく思へり。或る時直次弟の
 家にゆき、わざと刀をのこして歸りたり。重信、
 家來をして之を追はしめ、刀を渡さんとしけ
 れば、直次別に刀を示し、「我が刀は此にあり、それ
 は弟の家の刀なり」として受取らざりき。

第四課 兄弟

昔、讚岐サヌキの國に、勘七カンシチ、利左衛門リザエモンといふ兄弟のものが、あり、兄は弟を愛し、弟は兄を敬ひて、其の間甚だ睦しかりき。

或る時、田地の検査ありけるに、勘七は、是まで知らずして、弟の田を一段餘り取り込みて、耕し居たること分りたり。勘七大いに心をいたため

て、之を返したるに、弟は兄のものになしかかれよとて、受取らざりしが、村役人の諭しにより、遂に之を受けたり。其の後、勘七は、をりを見て、金を弟におくりけるに、利左衛門またかたくなみ受て受けざりしが、又村役人の諭しによりて、遂に其の中の幾分を受けたり。

兄弟に友に。

第五課 朋友

善をすすめ悪をいまし
 むるは、朋友の道なり其
 の過惡を見ながら諫め
 ざるは、信なきなり。
 板倉重宗、京都にありけ
 る時、江戸の友人某、長崎



の官吏となり、行く道に重宗を訪へり。重宗古き
 鏡を取り出し、其の人に示して、「是は、元の長崎奉行
 竹中重興の贈り物なるが、後に重興は、賄ひをむさ
 ぼり、身をあやまりたれば、余、朝夕之を見て自ら
 戒めとせり。今之を君に贈りてはなむけにかふ。願
 はくは、君も之を見て自ら戒められよ」といひけり。
 朋友相信し。

第六課 朋友

人と交るには、始めに能く其の人からを見分くべし。さて一旦交りをむすびたる後は、信をあつくして、終身かはることあるべからず。

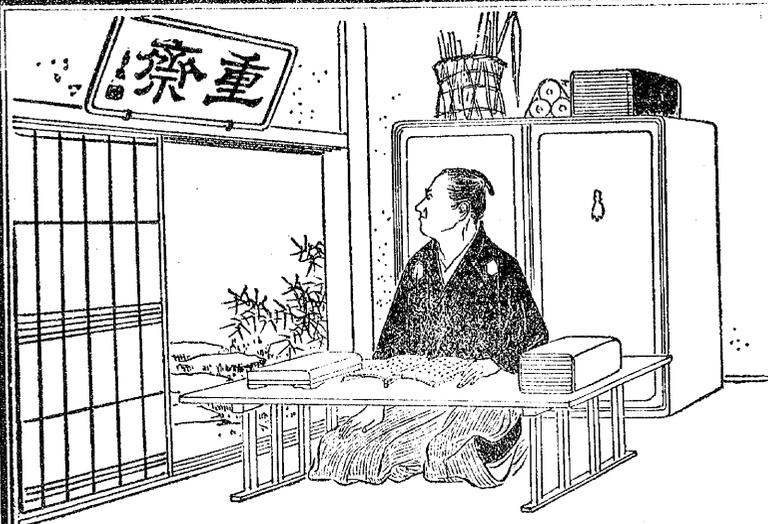
昔、會津に田中三郎兵衛と管勝兵衛といふ人あり、平生親しく交りしが、或る日二人

役所にて事を評議し、互に顔色をかへて高聲にあらそひたり。されば人皆「此の後は、二人の間必ずうとくなるべし」と思ひしに、田中は、役所よりかへりて、直ちに管をむかひしめ、管も亦すみやかに來りて、平日の如く快く語りあひきとぞ。

朋友相信し。

第七課 威儀

凡そ人はいかに學問ひろく、才行うるはしくとも、威儀そなはらざれば、人の侮りを受けやすし。されば容貌ヨロガを正し



くし、たちおをつつし、身なりをととのつ言葉をつつしみて、威儀を修むべし。

藪孤山ヤブコザンは、幼き時氣質かるがりしかりしかば、其の父「君子重からざれば威あらず」といふ語をひきて、之をいましめたり。孤山是より大いに心を用ひて、威儀を修めしかば、終に氣高き人物となりたり。

第八課 恭儉

むかし京都に、伊藤仁齋イトウジンサイといふ名高き學者ありき。其の頃多くの學者よりあつまりて、各其の説をたたかはずことありしに、聲を高くして争ふもの多かりけり。さるに、仁齋のみは、終始謹みて辯論をせしかば、人皆其の徳に服したり。

酒井忠勝サカキチカサトは、儉素を守りし人なり。或る時、召しつかひの小坊主、こよりの真中にて、狀箱の封をなし、兩端を切りすてしかば、忠勝之を見て、片端より用ふれば、二度の用を爲すべし、僅のものにても、無益に費すべからず、と誡められきことぞ。

恭儉己れを持し。

第九課 忠實

公の職をつとめ、若しくは人の爲めに業を執るものは、忠實を旨として、其の職を勉むべし、かりそめにも、事を怠り、業をおろそかにすべからず。

昔、安藝アキの國に、才助サイスケといふものあり、七歳の時、深物屋フカモノヤにゆきて、其の業を習ひけるが、忠

實たぐひなく、朝は早くおきて、深め物をほし、夜はおそくまでにはたらきて、翌日のしたくをなしたり。かくて、主人の死せし後は、其の子に事へしが、後の主人長病にて死し、其の家甚しく貧困におちいりしかば、才助は、遺族イゾクを我が家にむかへて、懇に養ひ、ひたすら主家の再興をはかりたり。

第十課 油斷を誠む

塚原ト傳ツカハラトデン、弟子たちを伴ひて、道を行きけるに、垣につなげる馬、足をあげて弟子をけたり。然るに其の人、巧みに身をかはしてさけけ



れば、見る人其の早わざをほめたるに、ト傳は、更に感心したる色なかりき。後人人相謀り、ト傳を試んとて、其の通らんとする小道に、馬をつなぎおきたるに、ト傳は、之を見、遠くさけて通りたり。誠に用心の深き人といふべし。

油斷大敵。

第十一課 修省



すべて人人、我が悪し
 きことには心づかず
 して、ただ一すぢに我
 は善し、人は悪し、我
 は道理なり、人は無
 理なりと、ばかり思ひ

て、我が身を誠むることなきは、あるまじ
 きことなり。人の事をばさしおきて、我
 が身を省みて、誠めつつしむべし。
 瀧鶴タケカズの妻は、悪しき心おこれば、一つの毬
 に赤糸をまき、善き心おこれば、又別の毬に
 白糸をまきて身をつつしみ、遂に善に進み
 きことぞ。

第十二課 節儉

儉約と吝嗇とは似て

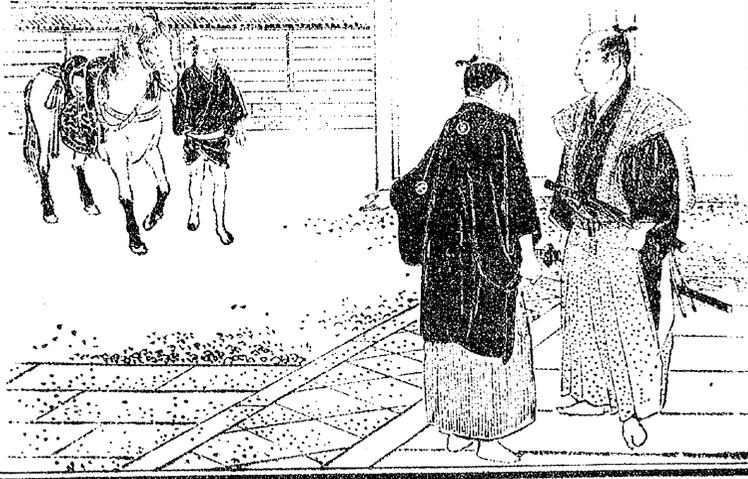
非なるものなれば、

よく其の區別をわき

まふべし。

鍋島正直、徳川齊昭の

賢明をしたひ或る時



これを訪ひけるに、目くれに及びて、粗食を

出しければ、聞きしに似ざる吝嗇の人と

思へり。やがて暇をつげて、玄關に至りけ

るに、齊昭一匹の名馬を指して、「之を君に

まねらすべし」といひければ、正直、大いに

感じ入り、是より心をかたむけて、深く交

りたり。

第十三課 仁慈



世の中に同じく人と
 生まれて、うゑごごゆ
 る人亦多し、其の不
 幸あはれむべし、我
 が身餘財あらばか
 かる貧人に施し與へ

て、自ら樂しみ人をも樂しましむべし。

むかし、武藏ムサシの國に、新井アラキ孫助マサタケといふ人ありき。

或る年洪水出でければ、貧人に米麥を恵み、
 租税をも代りてをさめたり。又毎年歳暮
 には、米二斗づつを、貧人の親あるものにあ
 たつて、孝養をつくさしめたり。

博愛衆に及ほし。

第十四課 勉學

凡そ人は、學問を修めて才智をみがき、品行を善くして、身を立て家を興し、進みて人の爲め世の爲めをはかるべし。



金沢堂言集校三會社

搗保己ハカホキ一キノイチは、七歳の時、病みて盲目となりしが、書を讀むことを好み、常に人に乞ひて之を讀ましめ能く覚えおきて忘れず、遂に名高き學者となりて、古今になき大部の書物を著し、總檢校ソウケンギョウに補ホせられたり。學を修め業を習ひ以て智能を啓發し徳器を成就し。

第十五課 學藝

細川藤孝は、少かりし時、戰場に出で、敵の
乗りすてたる馬を見たれども、其の主見
えざりければ、引きかへさんとしたり。
然るに従者、馬の鞍の上をなでて、「未だ
乗り下あたたかなれば、遠くは行かじ、古
歌にも、

君はまだとほくは行かじ、我が袖の、

たもとのなみだかあきはてねば。

といふことあり、早く追ひかけたまへといふに、「よくこそ氣づきたれ」とて、追ひ行き
て、之を撃ち取りたり。是より心を和歌に
ひそめて、遂に其の奥義を極めたり。

藝は身を助く。

修正尋日修新

同	明治二十八年一月十五日印	刷	入門卷一	金四錢貳厘	卷三	金六錢六厘
同	年一月十八日發	行	入門卷二	金六錢	卷四	金六錢六厘
同	三十四年四月廿四日修正再版印刷	行	卷一	金六錢六厘	卷五	金六錢六厘
同	年四月廿八日發	行	卷二	金六錢六厘	卷六	金六錢六厘

不許複製

著作 渡邊 政吉

發行 金港堂書籍株式會社

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表 原亮一郎

東京市下谷區德榮寺町四百十四番地

賣捌所 各府縣特約販賣所

◎弊社ハ常ニ書籍ノ用紙印刷製本等ニ注意シテ勉メテ其限半ヲ期セリ、サレド多數ノ中萬一學年間ノ使用ニ耐ヘザルガ如キ粗製ノモノ有之候ハバ御通知次第無代價ヲ以テ御引換可申上候

◎本書ハ僻遠ノ地ニ至ルモ定價ヲ超過シテ賣捌カシムルコトナキハ勿論直接ノ御注文ハ多少ニ拘ラズ運賃ヲモ負擔可仕候

